

学園点描

県中体連は熱中症対策で開会式・公式練習などを省略し、試合短縮へ、大会の形を変化させています。

《H学園》

NO.6

R7. 5. 21

担当：校長

17日（土）に予定していた運動会は、当日の天候と気温の影響により、翌日18日（日）の予備日に延期して開催しました。義務教育学校ならではの、前期・中期・後期すべての児童生徒が参加する運動会。年齢や成長段階の異なる子どもたちが一堂に会して行うこの行事では、それぞれの競技に懸命に取り組む姿を通して、人としての成長の軌跡を感じ取ることができます。

また、子どもたち自身も、上級生の姿に憧れを抱いたり、下級生の様子からかつての自分を重ねたりしながら、自身の成長を実感する機会となったことでしょう。将来の自分の姿をすぐそばに見ることができ、これまでの歩みを振り返るきっかけにもなる。このような経験ができるのは、義務教育学校ならではの大きな魅力の一つです。

前日の雨が降る前に、地域の皆さまにはテントの運搬・設置にご協力いただきました。また、運動会終了後には、例年にも増して多くの保護者の皆さまに後片付けをお手伝いいただき、ご尽力を賜りました。皆さまの温かいご支援に、心より感謝申し上げます。

なお、運動会で14の個人の方・各地区から多大なるご奉仕をいただきましたこと、紙面ではございますが、心より御礼申し上げます。

一生懸命を馬鹿にしないバトン

運動会は、前日の雨や寒さに比べて、とてもよい状況で迎えることができました。

開会式の中で語る生徒たちの姿は、とても素晴らしいものがありました。開会宣言で、N・T副実行委員長は、「壁にぶつかりながら、苦勞したこともあった・・・」と当日までに味わった最上級生としての苦勞を思い出させてくれました。K・H実行委員長は、運動会のテーマ“百花繚乱～思いを繋げ！萩野の10年のバトン～”の話から、H学園の先輩たちが刻んできた10年を、自分たちがしっかり次にバトンをつないでいくのだという話をしてくれました。メモなどを何も見ずに語ってくれた実行委員長の姿は、多くの方々の胸に刺さりました。



運動会が始まると、放送を担当していた女子生徒W・Tさんのアナウンスを聞いて、私は思わず耳を傾けました。落ち着いて、はっきりと聞き取りやすい話しぶりに驚かされたのです。

「こんな一面があるんだなあ」と、新たな発見をしたような気がしました。

誰も知ることのない顔を見る時とはいつなのでしょう。

学校という場所は、家では見せないような姿が自然と表れるところなのかもしれません。保護者の前では見せない、もう一つの顔が、学校では顔を出すことがよくあります。保護者にとって予想もしないうれしい顔もあれば、信じられないと落胆してしまう顔もあるかもしれません。

運動会の練習が佳境を迎えたある日の放課後、私は偶然、校舎の隅で一人黙々と応援合戦の練習をしているある子どもの姿を見かけました。うちわを持って、何度も高く掲げては、先輩から注意されたことを思い出しながらもう一度、またもう一度と繰り返しています。

「もう帰っていいんだよ」と声をかけても、「あと一回だけ…」と手を止めません。「がんばるねー」と言うと、「〇〇年生の人のようにカッコよくなりたいから。カッコ悪いと、迷惑かなと思って…」と答えてくれました。

笑われることを恐れずに全力を尽くす。誰かのために、自分の役割を懸命に果たす。

今年の運動会は、まさに「一生懸命を馬鹿にしない伝統」が、子どもたちの姿に表れた、そんな一日でした。

運動会が終わり、椅子を教室に入れる途中で、二人の子どもの会話が聞こえてきます。

「応援団の〇〇さん、すごくカッコよかったよね」

「今度は、（自分も）何か頑張ってみたいな」



この小さな会話の中に、目に見えないバトンがありました。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。